

転職をするなら35歳までに。この「35歳転職限界説」をすっかり信じていたYさんは、転職するべきかどうか悩んでいた。

5年前に転職して今の会社に入ったYさん。「今の職場は人間関係もいいし、仕事自体も嫌ではないのですが、何か物足りないんです」と、恐縮した態度で話した。

Yさんによると、前の会社では想定外の仕事が頻発し、いつもバタバタしていて毎日がしんどかった。今の会社に入社して3年が過ぎたところから、仕事内容も賃金もすべてが変わらないことに気付いた。きつこの先も変わらないままだろうと、漠然と不安になっているところ。

「今、34歳なので早くしないと間に合わないと思ってる」。真剣なまなざしでその話を。えっ、34歳だとうとうして？ Yさんの言う意味がつかめなかった。「間に合わないって、何が？」と尋ねると「35歳までに転職しないとどうも無理だっ

「35歳転職限界説」にあせり

経歴書き出し、自分知る

何かで見ました。この言葉聞いてよやく、

Yさんが例の限界説にこだわっていることが判明した。

「それは違いますよ。長年の社会経験で培われた能力を生かしてほしい

た能力なんてないかも。不安げなYさんを前に

「絶対あります！ 自分では気付かないだけです。自信を持って！」と

「それで、「じゃあYさん、一度、職務経歴書を作成しましょうか？」と提案した。「シヨクムケイレキシヨ？」

分をアピールできなかった。なんてこともなくなるし、「一石二鳥ですよ」。私は説明しながらひな型を見せた。

職務経歴書は、もともと面接を受ける際の武器になる書類だが、転職をするべきかどうか決めかねているYさんにとって、どの方向に進めば良いかを考える上で非常に意味のある作業になる。

「こんないものがあつたんですね。私、ここぞ」とは何もないと思っただけで、いろいろ出てくるもんですね。へえ、「すごい」と感心しきり。「私にも他人に胸を張れるようなことがあつたんですね。どんなことに満足できれば仕事が楽しいと思えるのかが分りました」。さらに続けて「今の仕事に満足できる要素がないか、もう一度確認します。それで駄目なら、そのときに転職を考えます。自分のことが分

と知っている企業もたくさんあります。無理だなんてことは絶対ありませんよ」と、Yさんの納得がいくように丁寧に説明した。そんなんですか。少し安心しました。でも私には社会経験で培われ

してきた仕事について、どこにやりがいを感じたかを振り返って「こんな能力が身につきました」とアピールする書類です。これを作れば今まで自分の自信が、面接時には「緊張して自

という面接に限って言うたいことの半分も言えず、悔しい思いをしてきました。ぜひ作ってみました」と興味津々のYさん。早速作成に取りかかった。

「さっきまで、書くことができました、もう迷いません！」。Yさんから初めて聞く力強い声だった。転職は悪いことではない。だが「何となく」「今の仕事が嫌だから」といった理由では、後悔しかねない。自分に向き合いじっくり考える時間を持つことは、遠回りなようで実はハッピーへの近道なのである。



イラスト・多田くにお

(福井新聞社提供)